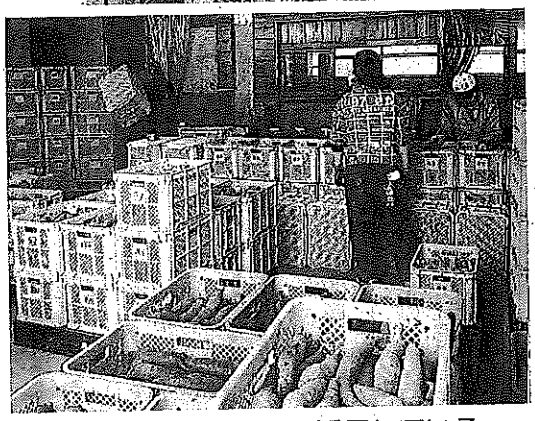
農業共済新聞　2019年(令和元年)5月22日

青果用サツマイモ
生産量拡大に意欲

鹿屋市輝北町で青果用サツマイモの生産から出荷まで手掛ける株式会社農栄（浅山貴史代表＝48歳）。廃校となった小学校を集出荷施設として活用し、データに基づく栽培管理や効率的な生産で出荷量を伸ばしている。

鹿屋市　㈱農栄

体育館は大型乾燥機を備えた出荷場として活用する



教室を選別場として活用している

廃校を集出荷施設に活用
今年の出荷見込みは1500トン

兵庫県でサツマイモの卸業を営んでいた浅山代表は、鹿児島県の生産量は全国1位だが、青果用としての生産が少ないことに着目。健康志向で高まる焼き芋などの需要に応えたいと、生産に適した同県で自ら栽培することを決意し、2016年に同社を設立した。

近隣の小学校と統合し、11年3月に廃校になった旧平南小学校を同市の跡地利活用事業で借り受けている。体育館は大型乾燥機を備えた出荷場とし、校舎は選別場や貯蔵庫などへ転用した。浅山代表は「広い敷地や既存の建物がコストを抑えて利用できた。使い勝手も良く効率的な作業に取り組める」と話す。

今年は「べにはるか」を中心に14ヘクタールを自社栽培し、栽培契約を結ぶ農家を含め年間1500トンの出荷を見込む。ねっとりとして甘味が強くすっきりとした後味が特徴で、主に大手スーパーや外食チェーン店と取引される。

貯蔵庫として利用している教室で板谷取締役

自社の栽培にデータ管理導入

栽培経験のなかった同社では体系的な栽培を確立するために、管理のデータ化に取り組んだ。作業者は圃場ごとのデータをスマートフォンで共有し、土壌診断に基づいた施肥量や生育状況、作業時間などを記録する。板谷薫取締役(45)は「人の動きを分析し可視化することで、圃場ごとの特性を全員が把握できる。データの蓄積が高い品質で均一な生産につながる」と話す。

規模拡大を進める中で、形や大きさで規格外となるサツマイモの活用法が課題だという。浅山代表は「生産量の5%は規格外となってしまう。付加価値を付けることで生産意欲の向上につながれば」と6次化も視野にいれる。

今後について「取引先のニーズに応えるため、4月には同市の旧百引中学校を新たに借り受けた。雇用や設備を整えながら栽培面積を増やし、3年後には年間出荷量を3千トンまで引き上げたい」と力を込める。

（平原）